

女子中学生における競技力向上の要因

～ 東久留米市立西中学校ハンドボール部からの示唆 ～

Factors of junior high school girls' improvement in athletic fields

～ Suggestions through coaching a handball club at West JHS in Higashi-Kurume city ～

スポーツクラブマネジメントコース

5009A318-1 知名英則

研究指導教員:間野義之教授

1. 緒言

筆者が2003年よりコーチを務める東久留米市立西中学校（以下西中と略す）ハンドボール部は、筆者の高校および大学のハンドボール部での6年先輩である尾石智洋氏（以下尾石監督）が2000年に西中へ赴任したのと同時に部活動として活動を開始した。比較的歴史の浅い部ではあるが、全国制覇を5度（男子は春の全国大会1度、女子は春の全国大会1度と夏の全国大会3度）成し遂げた全国レベルで活躍するチームである。男子の活躍もさることながら、女子は夏の全国大会において3連覇を達成し、その活躍は全国的にみても特筆されるものがある。

一方、女子中学生の運動実態において一般的な傾向を見てみると、驚くべき事実があり、男子に比べてはっきりと実施時間が短いといえる。女子中学生の興味や関心はスポーツ以外にも多岐にわたると考えられるが、スポーツに対しての興味や関心が相対的に低いことが、このような結果に反映されていると考えられる。

日下（1999）は、「スポーツは遊びの要素をもつ。遊びとは、その楽しさが人を夢中にさせる自由な活動である。」と論じているが、このように運動やスポーツにあまり興味を示していない女子中学生において、西中女子ハンドボール部の特筆される活躍記録は、①ハンドボールを通じてスポーツをすることに夢中にさせることと、②そこから生まれる競技力向上という2つの相乗効果がなければ成し得ない偉業であると筆者は考える。

西中ハンドボール部に対する指導の秘訣を探ることにより、スポーツをすることに夢中にさせ、競技力向上に向かわせる糸口を明らかにし、さらには、日本のハンドボール界のためにも中学生世代の強化に関して考察・研究することが、一指導者として非常に意義のあることだと考えている。

2. 研究目的

先行研究レビューを通して、①中学生世代における女子のスポーツ実施率は男子に比べて明らかに低いこと、②運動部活動は運動能力だけでなく人間性や学力などにも好影響を与える運動部活動の効果は大きいこと、が判明し、中学生世代のスポーツの有効性に着目した。

また、選抜された選手たちによるチームではなく、公立の普通的女子中学生である西中ハンドボール部の生徒たちが、運動やスポーツにあまり興味を示さない世代に

おいて全国大会3連覇を成し遂げた偉業にも着目した。そこで本研究は、

- ①所属する部活動によって選手のパーソナリティに差異があるかの検証を行うこと
- ②所属する部活動によって得られる効果に差異があるかの検証を行うこと
- ③各ステイクホルダーから西中ハンドボール部の強さの要因の検証を行うこと
- ④西中ハンドボール部を指導している尾石監督の特性を検証すること
- ⑤以上のことから、女子中学生において競技力向上を成し遂げる要因を明らかにすること

を研究の目的とする。

表1 西中ハンドボール部歴代選手による戦績

大会名	東京都中学校 春の全国中学生 新人大会	東京都中学校 春の全国中学生 ハンドボール 選升権大会	東京都中学校 関東中学校 ハンドボール 選升権大会	関東中学校 ハンドボール 大会	全国中学校 ハンドボール 大会
	(11月)	(3月下旬)	(7月下旬)	(8月上旬)	(8月下旬)
開部時期					
一peri生	準優勝		優勝	準優勝	ベスト16
(～2003)					
二期生	優勝		優勝	3位	ベスト8
(～2004)					
三期生	優勝		優勝	優勝	優勝
(～2005)					
四peri生	優勝	ベスト8	優勝	優勝	優勝
(～2006)					
五peri生	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
(～2007)					
六peri生	優勝	一回戦敗退	優勝	ベスト8	—
(～2008)					
七peri生	優勝	ベスト16	優勝	優勝	ベスト8
(～2009)					
	2年次開催		3年次開催		

3. 研究方法

西中ハンドボール部の強さの要因を調査し、競技力向上への糸口を探るために2つの調査をした。

調査1では、①西中全校生徒、他校ハンドボール部および西中女子ハンドボール部卒業生を対象に、性格や興

味や運動に関する自己分析、入部動機、所属する部活動に当てはまる自己分析のアンケート調査を依頼し、②西中女子ハンドボール部に対しては強さの要素と、指導にあたる尾石監督に当てはまる質問を加えて回答を依頼した。配布数は503、回収数は475であった。無効なサンプルを除いた結果、有効回答は471、有効回答率は93.6%であった。すべてのデータの分析には統計解析ソフトSPSS17.0 for Windowsを使用した。

調査2では、西中ハンドボール部の強さの要因に関係する4人のステイクホルダーの方に、半構造化面接調査方法を用いて、西中ハンドボール部の強さの要因を検証することとした。インタビュー調査から得られた結果は、佐藤が「質的データ分析法 理論・方法・実践」(2008)で解説している質的データ分析法を元にして分析を行った。

4. 結果

アンケート結果では、所属する部活動によって選手のパーソナリティに差はほぼ見られなかったが、所属する部活動から得られるものについては、西中ハンドボール部が西中運動部や他校ハンドボール部より有意な差があることが多くみられた。また、西中ハンドボール部の中でも優勝群と未優勝群に分けて比較をしたところ、強さの要素になるところで有意な差が見られなかったが、指導する尾石監督に当てはまる要因のところでは有意な差が出た。

表2 所属する部活動に関する自己分析の現役生比較

現役生比較	西中女子ハンド ボール部(Ⅰ) (n=19)	西中女子運動 部(Ⅱ) (n=91)	他校女子ハンド ボール部(Ⅲ) (n=37)	F値	p	多重比較
コミュニケーションがとれている	4.11	3.74	4.03	2.00	n.s.	n.s.
貢献意欲	4.47	3.55	3.62	10.45	p=0***	Ⅱ、Ⅲ<Ⅰ*
共通の目的がある	4.79	3.74	3.95	10.41	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
技術が向上する	4.68	3.64	4.03	13.81	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
体力がつく	4.84	3.81	4.43	15.96	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
精神的に強くなる	4.74	3.70	4.38	15.27	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
状況判断	4.79	4.05	4.08	6.81	p=0.01**	Ⅱ<Ⅰ*
チームワーク	4.37	3.40	4.38	18.58	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
限界を超える	4.47	3.46	4.00	11.00	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
家族が応援	4.68	3.64	4.16	9.33	p=0***	Ⅱ<Ⅰ*
試合を想定して活動	4.53	3.74	3.95	6.75	p=0.02*	Ⅱ<Ⅰ*
苦しい中にも楽しさを味わう	4.42	3.60	4.05	5.42	p=0.05*	Ⅱ<Ⅰ*
達成感	4.74	3.98	4.51	7.96	p=0.01**	Ⅱ<Ⅰ*
夢中	4.63	3.79	4.46	8.37	p=0***	Ⅱ<Ⅰ、Ⅲ*
※「1. 全く当てはまらない～5. 非常に当てはまる」の5段階尺度 ***:p<0.001 **:p<0.01 *:p<0.05						
組織力 (コミュニケーション+貢献意欲+共通の目的)	4.46	3.67	3.86	9.93	p=0***	Ⅱ、Ⅲ<Ⅰ*

インタビュー調査では、西中ハンドボール部の強さは、女子中学生の傾向と指導の仕方、選手の力を伸ばすポイント、スタッフや保護者に対するマネジメント、保護者のサポート、指導者と選手との信頼関係に要因があることが挙げられた。

表3 尾石監督に当てはまるものの優勝群比較

優勝群比較	西中優勝群(Ⅰ) (n=20)	西中未優勝群 (Ⅱ) (n=36)	t値	p
カリスマ性	4.7	4.64	0.37	n.s.
動機付け	4.7	4.58	0.67	n.s.
知的刺激	4.6	4.53	0.39	n.s.
個別配慮	4.4	4.47	-0.34	n.s.
ハンドに関する知識	4.9	4.86	0.36	n.s.
仲間関係の把握	4.25	4.06	0.78	n.s.
論理的思考力	4.85	4.75	0.72	n.s.
意思決定力	4.85	4.81	0.37	n.s.
コミュニケーション力	4.65	4.56	0.51	n.s.
成功に導く能力	5	4.83	2.24	*
人間性	4.8	4.53	1.99	n.s.
一貫性	4.75	4.53	1.18	n.s.
相性が合う	4.75	4.58	0.93	n.s.
情熱	5	4.72	2.94	**
理解力	4.85	4.53	2.47	*
ハンドの特性	5	4.83	2.24	*
指導する内容の進歩	4.85	4.56	2.38	*
自分の信念を貫く	4.95	4.67	1.51	**
保護者とのかかわり	4.85	4.67	1.85	n.s.
分析力	4.9	4.69	1.15	n.s.
平等	4.7	4.47	2.77	n.s.
練習と試合の一貫性	4.75	4.64	0.69	n.s.
説得力	4.95	4.75	1.90	n.s.
洞察力	4.55	4.17	1.73	n.s.
妥協をしない	4.9	4.58	2.47	*
直感が鋭い	4.4	4.53	-0.66	n.s.
適材適所	4.65	4.67	-0.10	n.s.
※「1. 全く当てはまらない～5. 非常に当てはまる」の5段階尺度 ***p<0.01 *:p<0.05				
合成変数				
変革的リーダーシップ (カリスマ性+動機づけ+知的刺激+個別配慮)	4.6	4.56	0.29	n.s.
リーダーシップ能力 (成功に導く能力+意思決定力+コミュニケーション力)	4.83	4.73	1.66	n.s.
リーダーシップコア (リーダーシップ能力+人間性+一貫性)	4.79	4.6	1.04	n.s.
リーダーとフォロアーの関係性 (リーダーシップコア+相性)	4.77	4.59	1.52	n.s.

5. 考察

本研究の結果より西中ハンドボール部は、女子中学生の特性を考慮して指導に当たり、尾石監督が指導のポイントとして挙げている①見極める力②モチベーションをあげるサイクル③全体から細部へのアプローチの三点と、適材適所で一人ひとりに活躍する場があることが機能し、結果を出していることが考えられる。

また、西中ハンドボール部を支えるまわりの環境にマネジメントがはたらき、大きな組織として活動していることが考えられる。

そして西中ハンドボール部の中でも、優勝群と未優勝群との差は、指導者と選手の相互信頼関係の強さに差が出ているのではないかと考えられる。

6. 結論

今回得られた女子中学生における競技力の向上の要因は、「明確な指導・理念をもとに自信を持たせる指導をすること」、「指導者の指導が適切に選手に伝えられ、受け入れられること」、「家族や保護者の充実したサポート体制を構築すること」、「関係者による共通で一貫したマネジメントを貫くこと」、「指導者と選手との信頼関係構築の必要性」であることが明らかになった。